

名古屋港南部に位置する新舞子マリンパーク魚釣り施設で 釣獲された魚類

春日井 隆 小林 清重

名古屋港水族館（公益財団法人名古屋みなと振興財団） 〒455-0033 愛知県名古屋市港区港町1-3

Fishes caught at the fishing facility of Shinmaiko Marine Park located in the southern part of the Port of Nagoya

Takashi KASUGAI Kiyoshige KOBAYASHI

Port of Nagoya Public Aquarium, Nagoya Port Foundation, 1-3 Minatomachi, Minato-ku, Nagoya, Aichi 455-0033, Japan

Correspondence:

Takashi KASUGAI E-mail: t-kasugai@nagoyaminato.or.jp

要旨

2022年および2023年において、名古屋港南部の人工島に位置する新舞子マリンパーク魚釣り施設において釣獲生物の調査を行った。調査は101回実施し、釣り人が釣獲した生物を目視で確認、標本採取を行った。調査の結果、2年間で8目35科53種の魚類を確認し、そのうち8目29科42種について標本登録した。

We conducted a survey of angler-caught organisms at the fishing facility of Shinmaiko Marine Park, located on an artificial island in the southern part of the Port of Nagoya, during the two-year periods of 2022 and 2023. We conducted 101 surveys, visually identified and collected specimens of organisms caught by anglers. As a result of the surveys, 53 species of fish in 8 orders, 35 families were identified during the two years, of which 42 species in 8 orders, 29 families were registered as specimens.

序論

名古屋港にはかつて知多市の南浜ふ頭に所在する高潮防波堤（通称「知多堤」）を利用した「名古屋港海釣り公園」があったが、防波堤の改良工事に伴い2013年1月から休園となっている。新舞子マリンパーク（図1、愛知県知多市緑浜町2）は1997年4月にオープンした名古屋港最南端の人工島である南5区に整備された公園施設で、長さ400 mの人工海浜「ブルーサンビーチ」をはじめ、スポーツ広場、ピクニック広場などを備えている。この人工島の南端護岸約740mが「名古屋港海釣り公園」の代替施設「新舞子マリンパーク魚釣り施設（34°57'04" N; 136°49'03" E）」として転落防止柵、浮き輪、放

送設備などが整備され2015年1月から供用が開始された（図2）。2024年現在、年中無休で午前5時15分から午後8時まで一般市民に開放されている。

名古屋港水族館では開館した1992年以降、名古屋港に生息する生物調査の一環として、ガーデンふ頭で確認された生物を記録し、十脚目甲殻類（中嶋・春日井、2022）、軟体動物（中嶋ほか、2023）、魚類（春日井・中嶋、2024）の出現記録を報告してきた。また海産哺乳類であるスナメリについて、名古屋港に流入する河川への出現を含めた生息調査（齋藤ほか、2014；神田ほか、2024）および死亡漂着個体調査（加古ほか、2024）を行っている。

今回、名古屋港に生息するさらなる生物調査を目的に新舞子マリンパーク魚釣り施設で釣獲される生物を調査したので、その中の魚類について出現記録を報告する。

材料および方法

調査は2022年1月から2023年12月までの2年間、ほ

ぼ毎週、釣り人が多い土日および祝日を中心に行った。調査方法は調査員1、2名（主に1名）で主に午前中に1時間程度、釣り人が釣獲した生物を目視で確認及び聞き取りを行った。釣獲生物はその場でできる限り写真撮影を行うとともに種の同定をして記録したが、現場確認及び写真から種の同定が困難な個体に関しては科レベル、

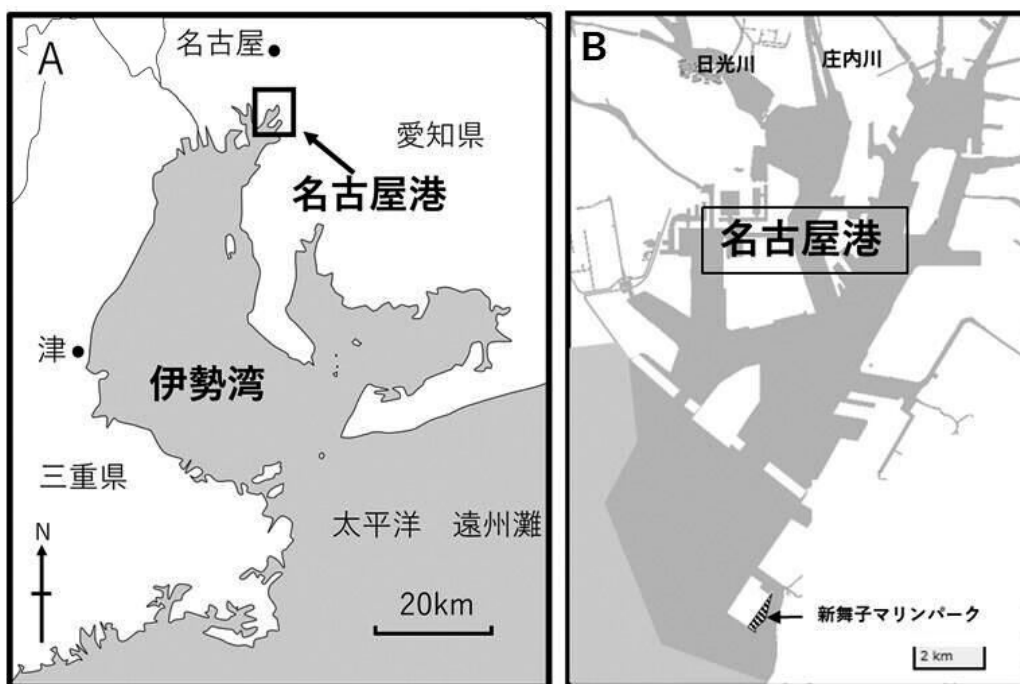


図1. 新舞子マリンパーク（地理院地図を改変）
(A) 名古屋港の位置 (B) 新舞子マリンパークの位置

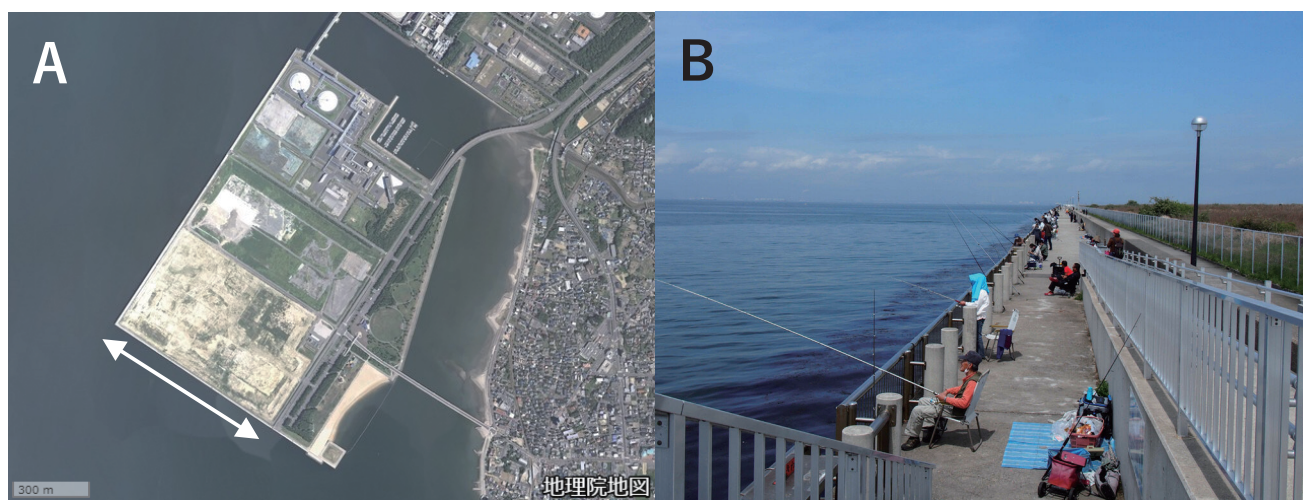


図2. 新舞子マリンパーク魚釣り施設
(A) 魚釣り施設の位置 両矢印の区間約740 mが整備されている（地理院地図を改変）.
(B) 魚釣り施設の様子 安全柵が設置されている。

属レベルでの記録とした。釣獲記録としては調査者が実際に確認した個体としたが、一部の魚種については釣り人からいただいた写真の個体についても記録とした。また釣獲された魚類の一部を釣り人から標本用に譲渡していただいた。持ち帰った個体は写真撮影後にノギスを用いて10分の1 mmまたは1 mmの精度で標準体長（SL）または全長（TL）を測定し、5-10%中性ホルマリン液浸標本にして登録番号（名古屋港水族館魚類資料の略号であるPNPA-Piに続く数字）を付して収蔵した。種の同定は中坊編（2013）に従ったが、写真のみの個体（クロホシフエダイ、コショウダイ）の同定には岡村・尼岡編（1997）も用いた。標準和名、学名については本村（2024）に準拠した。ただし、ネズミゴチの学名は中坊編（2013）に従い*Repomucenus curvicornis*とした。

結果

2年間で101回の調査を実施し、合計8目35科53種の魚類を確認し、そのうち8目29科42種について標本として登録した。以下に各種の概要について述べる。また、各月の出現状況を表1に示した。

ウナギ目 Anguilliformes

ウミヘビ科 Ophichthidae

1. ダイナンウミヘビ

Ophisurus macrorhynchus Bleeker, 1852

標本：PNPA-Pi00228, 1個体, TL 484 mm, 2023年5月5日（図3-1）；PNPA-Pi00246, 1個体, TL 640 mm, 2023年11月26日

2023年1, 4, 5, 6, 11月に確認。投げ釣りで釣獲されていた。愛知県内では渥美半島、高塚（豊橋市高塚町）沖の遠州灘からの報告がある（中島, 2003）。

アナゴ科 Congridae

2. マアナゴ

Conger myriaster (Brevoort, 1856)

標本：PNPA-Pi 00243, 1個体, TL 261.5 mm, 2023年10月14日（図3-2）

2022年4, 5, 7, 10~12月, 2023年1, 5, 6, 10月に釣獲を確認。主に投げ釣りで釣獲されていた。名古屋港内ではガーデンふ頭から幼魚の報告がある（春日井・中

嶋, 2024）。その他、愛知県内では田原町（現田原市）沖の三河湾において報告があり（中島, 2003）、また玉井ほか（2012）は愛知県一色漁港に水揚げされた個体があったことを報告している。

ニシン目 Clupeiformes

ニシン科 Clupeidae

3. マイワシ

Sardinops melanostictus (Temminck and Schlegel, 1846)

標本：PNPA-Pi00199, 1個体, SL136 mm, 2022年5月28日（図3-3）

2022年5月28日にマサバ、マアジに混ざってサビキ釣りで釣獲されているのを確認した。調査期間中で本種を確認したのはこの日のみであった。愛知県内では渥美半島、赤羽根（現田原市赤羽根町）沖の遠州灘から報告がある（中島, 2003）。

4. サツパ

Sardinella zunasi (Bleeker, 1854)

標本：PNPA-Pi00192, 1個体, SL96 mm, 2022年6月25日；

標本：PNPA-Pi00207, 1個体, SL103 mm, 2022年8月6日（図3-4）；標本：PNPA-Pi00244, 1個体, SL103 mm, 2023年11月19日

2002年6~10月, 2023年8~11月に主にサビキ釣りで釣獲されていた。名古屋港内ではガーデンふ頭で報告されている（春日井・中嶋, 2024）。その他、愛知県内では矢作川河口（碧南海浜水族館, 1992）、渥美郡田原町（現田原市）沖の三河湾（中島, 2003）、矢崎川河口（地村・亀薦, 2017）において報告がある。

5. コノシロ

Konosirus punctatus (Temminck and Schlegel, 1846)

2022年8, 10月, 2023年4, 5, 10月に釣獲されていた。写真（図4-1）は2023年4月29日に釣獲されていた全長約20 cmの個体である。名古屋港内ではガーデンふ頭でも大群が観察されている（春日井・中嶋, 2024）。その他、愛知県内では豊川河口部の三河湾奥部（中島, 2003）、矢作川河口（碧南海浜水族館, 1992）において報告がある。

春日井・小林（2025） 名古屋港南部に位置する新舞子マリンパーク魚釣り施設で釣獲された魚類

表1. 月別の出現状況

分類	種名	2022年												2023年											
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ウナギ目	ウミヘビ科	ダイナンウミヘビ												○			○	○	○					○	
	アナゴ科	マアナゴ			○	○		○			○	○	○				○	○					○		
ニシン目	ニシン科	マイワシ				○																			
		サッパ						○	○	○	○	○									○	○	○	○	
		コノシロ								○		○					○	○				○	○	○	
		カタクチイワシ				○		○	○	○	○	○									○	○			
ナマズ目	ゴンズイ科	ゴンズイ属					○			○															
ボラ目	ボラ科	ボラ			○	○					○					○	○				○	○	○		
トウゴロウイワシ目	トウゴロウイワシ科	トウゴロウイワシ																			○	○			
		トウゴロウイワシ科spp.																			○	○	○	○	
ダツ目	サヨリ科	サヨリ					○					○	○	○			○	○				○	○	○	
	ダツ科	ダツ																○					○		
スズキ目	メバル科	カサゴ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		クロソイ																				○		○	
		クロメバル	○																						
		シロメバル										○													
		メバル複合群種※1	○		○	○	○	○	○		○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	
		タケノコメバル				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	
		ホウボウ科	ホウボウ																○	○	○				
		コチ科	マゴチ									○	○					○	○	○	○		○	○	
		スズキ科	スズキ					○	○	○	○	○	○	○	○			○		○	○	○	○	○	
		ハタ科	キジハタ						○	○	○	○	○	○						○	○	○	○	○	
		アジ科	ギンガメアジ									○										○		○	
			マアジ						○	○	○	○	○	○					○	○	○	○	○	○	
			ブリ																					○	
			ヒイラギ科	ヒイラギ					○	○			○	○											
		フエダイ科	クロホシフエダイ																				○		
		イサキ科	コショウダイ																				○	○	
		タイ科	クロダイ					○				○		○	○		○	○	○	○	○			○	○
			マダイ																		○	○	○	○	
		キス科	シロギス					○	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○	○	○	○	
		ウミタナゴ科	マタナゴ				○												○						
			ウミタナゴ科spp.	○		○	○									○		○	○						
		メジナ科	メジナ									○	○												
			メジナ科spp.									○	○	○	○	○							○	○	
			キュウセン									○	○	○	○								○	○	
			アイナメ科	クジメ	○		○	○	○		○							○	○	○	○	○			
		カジカ科	アイナメ				○	○	○							○			○	○					
			アサヒアナハゼ				○		○											○					
			カジカ科spp.				○	○	○				○					○	○	○	○	○			
			タウエガジ科	ダイナンギンボ属				○				○		○					○						
		イソギンボ科	イソギンボ																○				○	○	
			イソギンボ科spp.				○													○					
		ネズヅボ科	ネズミゴチ										○												
			ネズヅボ科spp.					○	○	○		○	○	○	○				○	○					
			ハゼ科	マハゼ							○		○	○	○	○	○			○		○	○	○	○
				アカオビシマハゼ				○	○																
		スジハゼ						○												○					
		スジハゼ複合種群※2					○	○	○		○									○	○		○		
			ヒメハゼ																○						
			イトヒキハゼ				○	○	○	○	○	○			○			○	○	○		○	○	○	
		アイゴ科	ハゼ科spp.			○	○	○	○		○	○	○					○	○	○	○	○	○	○	
			アイゴ																				○	○	
			カマス科	アカカマス									○											○	
				ヤマトカマス																	○				
		カマス科spp.																				○	○		
		タチウオ科		タチウオ								○	○												
		サバ科	マサバ					○	○											○	○	○		○	
		カレイ目	カレイ科	イシガレイ																				○	○
				マコガレイ					○						○				○	○				○	○
				カレイ科spp.	○		○	○	○		○			○	○	○	○			○	○	○	○		○
フグ目	ギマ科	ギマ					○	○	○	○	○	○							○	○		○	○		
		カワハギ科										○										○	○		
		フグ科	ヒガンフグ								○	○	○	○	○					○			○	○	
			コモンフグ	○								○	○	○	○								○	○	
			クサフグ								○	○	○												
			フグ科spp.					○		○		○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	

※1 クロメバル、アカメバル、シロメバルからなる

※2 ツマグロスジハゼ、スジハゼ、モヨウハゼからなる

カタクチイワシ科 Engraulidae

6. カタクチイワシ

Engraulis japonica Temminck and Schlegel, 1846

標本：PNPA-Pi00205, 1 個体, SL95 mm, 2022 年 7 月 24 日（図 3-5）；標本：PNPA-Pi00209, 1 個体, SL91 mm, 2022 年 8 月 12 日

2022 年 4, 6～10 月, 2023 年 8, 9 月に主にサビキ釣りで釣獲されていた。特に夏季には、大群で表層を遊泳するのが確認された。名古屋港内ではガーデンふ頭で確認されている（春日井・中嶋, 2024）。その他、愛知県内では田原市沖の遠州灘において報告がある（中島, 2003；荒尾・玉井, 2011）。

ボラ目 Mugiliformes

ボラ科 Mugilidae

7. ボラ

Mugil cephalus cephalus Linnaeus, 1758

標本：PNPA-Pi00217, 2 個体, SL153, 174 mm, 2022 年 10 月 15 日（図 3-6）

2022 年 3, 4, 10 月, 2023 年 4, 5, 9～11 月に釣獲を確認した。当歳魚から全長 50cm を超えるサイズに至るまで、様々な成長段階において大群を形成しての群泳がしばしば観察された。名古屋港内に流入する河川では、信濃川、大田川、堀川河口において報告がある（荒尾ほか, 2007）。

トウゴロウイワシ目 Atheriniformes

トウゴロウイワシ科 Atherinidae

8. トウゴロウイワシ

Doboatherina bleekeri (Günther, 1861)

標本：PNPA-Pi00235, 1 個体, SL87.7 mm, 2023 年 8 月 31 日；標本：PNPA-Pi00237, 1 個体, SL90.0 mm, 2023 年 9 月 10 日（図 3-7）

2023 年 8～11 月にトウゴロウイワシ科魚類がサビキ釣りで多数釣獲されていた。2023 年 8 月 31 日, 9 月 10 日に得た 1 個体ずつを調べた結果、肛門が腹鰭の後端より前方に開孔すること（瀬能, 2013b）から本種に同定された。名古屋港内ではガーデンふ頭から報告されている（春日井・中嶋, 2024）。その他、愛知県内では遠州灘において報告がある（中島, 2003）。

ダツ目 Beloniformes

サヨリ科 Hemiramphidae

9. サヨリ

Hyporhamphus sajori (Temminck and Schlegel, 1846)

標本：PNPA-Pi00186, 1 個体, SL255 mm, 2022 年 5 月 15 日（図 3-8）

2022 年 4, 10～12 月, 2023 年 4, 5, 9～11 月に釣獲を確認した。4, 5 月は産卵期であり多くの個体が岸壁沿いを遊泳しており、主にホンダワラ類などの海藻に産卵する様子もしばしば観察された。この産卵期には本種を狙う釣り人が多数訪れる。愛知県内では田原町（現田原市）沖の三河湾において報告がある（中島, 2003）。近縁種のクルメサヨリ *H. intermedius* が愛知県内の天然湖沼である油ヶ淵において報告されている（地村・朝倉, 2019）。

ダツ科 Belonidae

10. ダツ

Strongylura anastomella (Valenciennes, 1846)

2023 年 5, 10 月にそれぞれ 1 個体ずつ釣獲されたのを確認した。標本は得られなかったため、2023 年 5 月 23 日に釣獲された全長 60 cm を超える個体を写真で示す（図 4-2）。名古屋港内ではガーデンふ頭において幼魚の出現が報告されている（春日井・中嶋, 2024）。その他、愛知県内では蒲郡沖の三河湾において報告がある（中島, 2003）。

スズキ目 Perciformes

メバル科 Sebastidae

11. カサゴ

Sebastes marmoratus (Cuvier, 1829)

標本：PNPA-Pi00206, 1 個体, SL111 mm, 2022 年 7 月 24 日（図 3-9）

調査期間中ほとんどの調査時、すべての月で釣獲が確認された。名古屋港内ではガーデンふ頭において報告がある（春日井・中嶋, 2024）。玉井・荒尾（2021）は愛知県一色漁港に水揚げされた個体を報告している。

12. クロソイ

Sebastes schlegelii Hilgendorf, 1880

2023年7月、11月に1個体ずつ釣獲されているのを確認した。標本は得られていない。本種は涙骨に顕著な3つの棘があることにより、他のメバル科魚類と容易に同定できる。2023年11月26日に釣獲されていた全長40cmを超える大型個体を示す（図4-3）。名古屋港内ではガーデンふ頭で幼魚の採集が報告されている（春日井・中嶋，2024）。その他、愛知県内では江比間（田原市）沖の三河湾において報告がある（中嶋，2003）。

13. クロメバル

Sebastes ventricosus Temminck and Schlegel, 1843

標本：PNPA-Pi00180，1個体，SL135 mm，2022年1月9日（図3-10）

従来のメバル*Sebastes inermis*は、Kai and Nakabo（2008）によりクロメバル*S. ventricosus*、アカメバル*S. inermis*、シロメバル*S. cheni*の3種として記載された。標本個体は生時の黒っぽい体色と胸鰭軟条数が16本、臀鰭軟条数が8本であることから本種に同定された。2022年1月に釣獲された1個体を入手したが、調査期間を通して本種と思われる個体の釣獲は稀であった。

14. シロメバル

Sebastes cheni Barsukov, 1988

標本：PNPA-Pi00218，1個体，SL68 mm，2022年10月15日；標本：PNPA-Pi00220，1個体，SL77 mm，2022年10月30日（図3-11）

2022年10月に得られた2個体は、生時の白っぽい体色と胸鰭軟条数がともに17本、臀鰭軟条数もともに8本であることから本種と同定された。名古屋港内ではガーデンふ頭で確認されている（春日井・中嶋，2024）。その他、愛知県では田原市赤羽根町地先の遠州灘において報告されている（荒尾・玉井，2011）。

クロメバル、アカメバル、シロメバルからなるメバル複合種群が、ほぼ周年釣獲されていた。シロメバルが最も多く釣獲されているようだが、アカメバルと思われる個体も確認され、体色では判別できない個体も見られた。九州北部海域におけるメバル複合種群のAFLP解析の結果、167個体中20個体が雑種と判別されているため（安武ほか，2021）、本調査地においても雑種の存在の可能性があると思われる。

15. タケノコメバル

Sebastes oblongus Günther, 1877

標本：PNPA-Pi00203，1個体，SL158 mm，2022年7月13日（図3-12）

2022年4～12月、2023年1、4～11月に釣獲を確認した。全長40cmを超える大型個体も確認した。名古屋港内ではガーデンふ頭において報告がある（春日井・中嶋，2024）。その他、愛知県内では田原町（現田原市）沖の三河湾において報告がある（中嶋，2003）。

ホウボウ科 Triglidae

16. ホウボウ

Chelidonichthys spinosus (McClelland, 1843)

標本：PNPA-Pi00229，1個体，SL74.9 mm，2023年5月20日（図3-13）

2023年5月、6月、7月に幼魚が釣獲されていた。名古屋港内ではガーデンふ頭で幼魚1個体が確認されている（春日井・中嶋，2024）。愛知県内では田原市高松町地先の遠州灘において報告がある（玉井・荒尾，2021）。

コチ科 Platycephalidae

17. マゴチ

Platycephalus sp.2

2022年10月、11月、2023年4～7月、9～11月に釣獲を確認した。標本は得られていない。春季、秋季には多くの釣り人が主にルアーで本種を狙う。50cmを超える大型個体も釣獲されている。図4-4は2023年5月20日に釣獲された全長約50cmの個体。近縁種にヨシノゴチ*Platycephalus* sp.1がいるが、釣獲を確認した個体は黒っぽい体色と数本の黒褐色帯がみられることからすべてマゴチであると思われる。愛知県内では渥美半島、赤羽根沖の遠州灘（中嶋，2003）、蒲郡市の落合川河口（荒尾ほか，2007）において報告がある。

スズキ科 Lateolabracidae

18. スズキ

Lateolabrax japonicus (Cuvier, 1828)

標本：PNPA-Pi00208，1個体，SL89 mm，2022年8月6日（図3-14）

全長10cmに満たない当歳魚から全長50cmを超える

大型個体まで釣獲されていた。ルアー釣りで専門に狙う釣り人も多い。名古屋港内ではガーデンふ頭（春日井・中嶋, 2024）、名古屋港内に流入する信濃川河口（荒尾ほか, 2007）、庄内川（荒尾, 2019）において報告がある。

ハタ科 Epinephelidae

19. キジハタ

Epinephelus akaara (Temminck and Schlegel, 1843)

標本：PNPA-Pi00202, 1個体, SL161 mm, 2023年7月5日（図3-15）；標本：PNPA-Pi00222, 1個体, SL61 mm, 2023年11月27日

2022年7～12月, 2023年6～11月に釣獲を確認した。全長40cmを超える大型個体も釣獲されるようで人気の魚種である。名古屋港内ではガーデンふ頭において報告がある（春日井・中嶋, 2024）。

アジ科 Carangidae

20. ギンガメアジ

Caranx sexfasciatus Quoy and Gaimard, 1825

標本：PNPA-Pi00212, 1個体, SL92 mm, 2022年9月4日（図3-16）

2022年9月, 2023年8, 10月に釣獲を確認した。本種は全長60 cmになる大型アジ類だが、釣獲されるのは全長20 cm程度までの“メッキ”と呼ばれる幼魚である。名古屋港内ではガーデンふ頭において報告がある（春日井・中嶋, 2024）。その他、愛知県内では赤羽沖の遠州灘において報告がある（中嶋, 2003）。

21. マアジ

Trachurus japonicus (Temminck and Schlegel, 1844)

標本：PNPA-Pi00194, 2個体, SL76, 80 mm, 2022年5月28日；標本：PNPA-Pi00197, 1個体, SL94 mm, 2022年6月12日（図3-17）

2022年6～12月, 2023年6～11月に釣獲を確認した。主にサビキ釣りで全長10 cm程度までのいわゆる“小アジ”が釣獲されていた。愛知県内では渥美町（現田原市）沖の三河湾（中嶋, 2003）、田原市赤羽根町地先の遠州灘（荒尾・玉井, 2011）において報告がある。

22. ブリ

Seriola quinqueradiata Temminck and Schlegel, 1845

2023年10月31日に釣獲された全長約40 cmの個体の写真（図4-5）を釣り人からいただいた。確認したのはこの写真のみであり、調査期間を通じて直接釣獲された個体は確認できなかった。写真の個体は上顎背後角が角張っている（瀬能, 2013a）ことからブリと同定された。

ヒイラギ科 Leiognathidae

23. ヒイラギ

Nuchequula nuchalis (Temminck and Schlegel, 1845)

標本：PNPA-Pi00191, 1個体, SL93 mm, 2022年5月28日（図3-18）

2022年5, 6, 10, 11月に投げ釣りなどで釣獲を確認した。釣り人からは地方名“ゼンメ”と呼ばれている。名古屋港内ではガーデンふ頭において報告がある（春日井・中嶋, 2024）。その他、愛知県内では阿久比川河口（荒尾ほか, 2007）、矢作川本流河口域（碧南海浜水族館, 1992）、矢作古川感潮域（地村ほか, 2014）において報告がある。

フエダイ科 Lutjanidae

24. クロホシフエダイ

Lutjanus russellii (Bleeker, 1849)

2023年10月28日に釣獲された個体の写真（図4-6）を釣り人からいただいた。確認したのはこの写真のみであり、調査期間を通じて直接釣獲された個体は確認できなかった。大きさは不明だが、体側に眼状斑があり、体表面に4本の暗色縦線がある（岩槻, 1997）ことから本種の幼魚と同定した。愛知県内では知多半島南端のアマモ場において幼魚の採集報告がある（春日井・斎藤, 1999）。

イサキ科 Haemulidae

25. コショウダイ

Plectorhinchus cinctus (Temminck and Schlegel, 1843)

2023年10月28日に釣獲された個体の写真（図4-7）を釣り人からいただいた。大きさは不明だが、背鰭上方から胸鰭に向かう幅の広い暗色斜帯があることや体側背後方と背、尾鰭に黒色斑が密に分布すること（赤崎,

1997；島田，2013）から本種に同定した．2023年9月にも同様の幼魚1個体の釣獲を確認したが標本は得ていない．名古屋港内ではガーデンふ頭において幼魚の報告がある（春日井・中嶋，2024）．

タイ科 Sparidae

26. クロダイ

Acanthopagrus schlegelii (Bleeker, 1854)

2022年5，9，12月，2023年1，3～7，11，12月に釣獲を確認したが，標本は得られていない．2023年1月3日に釣獲された全長約40 cmの個体を写真で示す（図4-8）．全長50 cmを超える大型個体も確認できた．愛知県内では田原町（現田原市）沖の三河湾（中島，2003），矢作川河口（碧南海浜水族館，1992）において報告がある．

27. マダイ

Pagrus major (Temminck and Schlegel, 1843)

標本：PNPA-Pi00234，1個体，SL57.0 mm，2023年7月8日（図3-19）；標本：PNPA-Pi00240，1個体，SL93.1 mm，2023年9月23日

2023年6～11月に“チャリコ”と呼ばれる幼魚が釣獲されていた．2023年7月21日に幼魚約2万個体が有志団体により放流された（釣具新聞，2023）ためか，その後2023年7月23日から11月までの調査では継続して多数の釣獲が確認された．

キス科 Sillaginidae

28. シロギス

Sillago japonica Temminck and Schlegel, 1843

標本：PNPA-Pi00187，1個体，SL84 mm，2022年5月15日（図3-20）

2022年5～12月，2023年5～11月に釣獲を確認した．投げ釣りで釣獲されており，専門に狙う釣り人も多い．愛知県内では田原町（現田原市）沖の三河湾（中島，2003）において報告がある．また荒尾・玉井（2011）は愛知県一色漁港に水揚げされた個体があったことを報告している．

ウミタナゴ科 Embiotocidae

29. マタナゴ

Ditrema temminckii pacificum Katafuchi and Nakabo, 2007

標本：PNPA-Pi00181，1個体，SL177 mm，2022年3月20日；PNPA-Pi00225，1個体，SL209 mm，2023年4月1日（図3-21）

従来のウミタナゴ *Ditrema temminckii* は体色が青みがかかる通称“マタナゴ”と赤みがかかる“アカタナゴ”の色彩変異があるとされていた（波戸岡，2000）．しかし，2007年に亜種ウミタナゴ *D. t. temminckii*，亜種マタナゴ *D. t. pacificum* とアカタナゴ *D. jordani* に分けられた（Katafuchi and Nakabo, 2007）．2022年3月，2023年4月に得た2個体は主に太平洋側に生息するマタナゴに同定された．ただし釣獲されていたウミタナゴ科魚類の中には赤みの強い体色の個体も確認されたので，アカタナゴが混在している可能性は高い．釣り人からは一括して“ウミタナゴ”と呼ばれている．

メジナ科 Girellidae

30. メジナ

Girella punctata Gray, 1835

標本：PNPA-Pi00214，1個体，SL99 mm，2022年9月10日；標本：PNPA-Pi00219，1個体，SL122 mm，2022年10月22日（図3-22）

2022年9，10月に得た2個体の標本は本種に同定された．2022年9～12月，2023年1，9～11月にメジナ科魚類の釣獲を確認した．多くは鰓蓋の後縁が黒くないので本種と思われるが，鰓蓋の後縁が明らかに黒い個体も確認できるのでクロメジナ *G. leonina*（中坊・土居内，2013b）がいる可能性もある．

ベラ科 Labrida

31. キュウセン

Parajulis poecileptera (Temminck and Schlegel, 1845)

標本：PNPA-Pi00223，1個体（雌），SL136 mm，2022年11月27日（図3-23）

2022年9，10，11月，2023年5～7，9～11月に釣獲を確認した．主に投げ釣りで釣獲されていた．

アイナメ科 Hexagrammidae

32. クジメ

Hexagrammos agrammus (Temminck and Schlegel, 1843)

標本：PNPA-Pi00226, 1 個体, SL106 mm, 2023 年 4 月 29 日（図 3-24）

2022 年 1, 3～5, 8 月, 2023 年 3～7 月に釣獲を確認した。クジメの方がアイナメより多く釣獲されているようだ。愛知県内では佐久島近海の三河湾から報告がある（中島, 2003）。

33. アイナメ

Hexagrammos otakii Jordan and Starks, 1895

標本：PNPA-Pi00184, 1 個体, SL92 mm, 2022 年 4 月 30 日（図 3-25）

2022 年 4～6 月, 2023 年 1, 5, 6 月に釣獲を確認した。クジメ *H. agrammus* とともに, ブラクリ仕掛けなどで釣獲されている。愛知県内では田原町（現田原市）沖の三河湾において報告がある（中島, 2003）。

カジカ科 Cottidae

34. アサヒアナハゼ

Pseudoblennius cottoides (Richardson, 1848)

標本：PNPA-Pi00185, 1 個体, SL56 mm, 2022 年 4 月 30 日；PNPA-Pi00198, 1 個体, SL74 mm, 2022 年 6 月 12 日（図 3-26）；標本：PNPA-Pi00230, 1 個体, SL90.0 mm, 2023 年 6 月 10 日

2022 年 4, 6 月, 2023 年 6 月に 1 個体ずつ得た標本は本種に同定された。その他, 2022 年 4～6, 10 月, 2023 年 4～8 月にカジカ科魚類の釣獲が確認された。

イソギンボ科 Blenniidae

35. イソギンボ

Parablennius yatabei (Jordan and Snyder, 1900)

標本：PNPA-Pi00227, 1 個体, SL73.5 mm, 2022 年 5 月 5 日；標本：PNPA-Pi00241, 1 個体, SL67.4 mm, 2023 年 10 月 7 日（図 3-27）；標本：PNPA-Pi00245, 1 個体, SL74.2 mm, 2023 年 11 月 26 日

2023 年 5, 10, 11 月に各 1 個体得た標本は本種に同定された。その他 2022 年 4 月, 2023 年 6 月にもイソギンボ

科魚類の釣獲を確認した。

ネズッポ科 Callionymidae

36. ネズミゴチ

Repomucenus curvicornis (Valenciennes, 1837)

標本：PNPA-Pi00216, 1 個体（雄）, SL135 mm, 2022 年 10 月 8 日（図 3-28）

2022 年 10 月 8 日に得た 1 個体は本種（雄）と同定された。愛知県内では田原町（現田原市）沖の三河湾（中島, 2003）, 田原市から豊橋市地先の遠州灘（玉井・荒尾, 2021）において報告がある。ネズッポ科魚類はシロギス狙いの投げ釣りで釣獲されていた。

ハゼ科 Gobiidae

37. マハゼ

Acanthogobius flavimanus (Temminck and Schlegel, 1845)

標本：PNPA-Pi00201, 1 個体, SL140 mm, 2022 年 7 月 2 日（図 3-29）；標本：PNPA-Pi00247, 1 個体, SL128.8 mm, 2023 年 12 月 17 日

2022 年 7, 9～12 月, 2023 年 1, 5, 7～12 月に釣獲を確認した。釣獲されるハゼ科魚類の中では食用目的とされている種なので, 釣獲後の個体を多く確認できた。名古屋港内ではガーデンふ頭（春日井・中嶋, 2024）, 港内へ流入する河川では庄内川（荒尾, 2019）, 日長川, 美濃川, 信濃川, 天白川, 山崎川, 日光川, 筏川の河口域（荒尾ほか, 2007）において報告がある。

38. アカオビシマハゼ

Tridentiger trigonocephalus (Gill, 1859)

標本：PNPA-Pi00182, 1 個体, SL86 mm, 2022 年 4 月 3 日；標本：PNPA-Pi00190, 1 個体, SL72 mm, 2022 年 5 月 22 日（図 3-30）

2022 年 4, 5 月に得た各 1 個体の標本は本種に同定された。名古屋港内ではガーデンふ頭において報告がある（春日井・中嶋, 2024）。

39. スジハゼ

Acentrogobius virgatus (Jordan and Snyder, 1901)

標本：PNPA-Pi00188, 1 個体, SL55 mm, 2022 年 5 月 15 日；

PNPA-Pi00195, 1 個体, SL58 mm, 2022 年 5 月 29 日（図 3-31）；PNPA-Pi00231, 1 個体, SL55.9 mm, 2023 年 6 月 18 日

従来“スジハゼ”は 1 種として扱われ、形態的に区別される 3 タイプ（スジハゼ A, B, C）の存在が指摘されてきた（吉郷, 2001；鈴木ほか, 2004）。現在はツマグロスジハゼ *Acentrogobius* sp., スジハゼ *A. virgatulus*, モヨウハゼ *A. pflaumii* の 3 種に分けられている（明仁ほか, 2013）。2022 年 5, 6 月に得られた 3 個体の標本は、尾鰭中央の黒色斑が楔形であることと、胸鰭基部下部に固定後も明瞭な棒状斑があることからスジハゼに同定された。2022 年 5, 6, 9 月, 2023 年 6, 7, 10 月にもツマグロスジハゼ, スジハゼ, モヨウハゼのいずれかと思われる個体が釣獲されていたが、現場で詳細な同定ができなかったため、3 種からなる「スジハゼ複合種群（松井, 2014）」とした（表 1）。愛知県内では中島（2003）が知多半島の師崎, 三河湾口で得た個体を“スジハゼ *A. pflaumii*”として報告している。荒尾（2016）によれば三河湾にも 3 種が分布し、生息環境が少し異なることで棲み分けていることが示唆されている。

40. ヒメハゼ

Favonigobius gymnauchen (Bleeker, 1860)

標本：PNPA-Pi00232, 1 個体, SL60.0 mm, 2023 年 6 月 18 日（図 3-32）

2023 年 6 月に釣獲された 1 個体を標本として入手した。名古屋港内では日長川, 美濃川河口域から報告がある（荒尾ほか, 2007）。

41. イトヒキハゼ

Myersina filifer (Valenciennes, 1837)

標本：PNPA-Pi00196, 1 個体, SL90 mm, 2022 年 5 月 29 日（図 3-33）；標本：PNPA-Pi00200, 1 個体, SL76 mm, 2022 年 7 月 2 日

2022 年 5～9 月, 2023 年 1, 5～7, 9～11 月に釣獲を確認した。主に投げ釣りで釣獲されていた。第 1 背鰭の前方の黒色点, 頬と鰓蓋に青白色点がある（明仁ほか, 2013）ことなどから現地でも容易に同定が可能であった。愛知県内では三河湾において報告がある（中島, 2003；荒尾・玉井, 2011）。

アイゴ科 Siganidae

42. アイゴ

Siganus fuscescens (Houttuyn, 1782)

標本：PNPA-Pi00239, 1 個体, SL67.6 mm, 2023 年 9 月 16 日（図 3-34）

2023 年 10～12 月に釣獲が確認された。本種は背鰭, 腹鰭, 臀鰭の棘に毒を持つ。愛知県内では佐久島近海の三河湾において報告がある（中島, 2003）。また玉井・荒尾（2021）は愛知県一色漁港に水揚げされた個体を報告している。

カマス科 Sphyrinae

43. アカカマス

Sphyrna pinguis Günther, 1874

標本：PNPA-Pi00213, 2 個体, SL116, 145 mm, 2022 年 9 月 4 日（図 3-35）；PNPA-Pi00236, 1 個体, SL64.0 mm, 2023 年 9 月 10 日；PNPA-Pi00238, 1 個体, SL163.4 mm, 2023 年 9 月 16 日

2022 年 9 月, 2023 年 9 月に得た 4 個体の標本は本種に同定された。名古屋港内ではガーデンふ頭において 1 個体の採集の報告がある（春日井・中島, 2024）。

44. ヤマトカマス

Sphyrna sp.

標本：PNPA-Pi00233, 1 個体, SL103.5 mm, 2023 年 6 月 25 日（図 3-36）

2023 年 6 月に釣獲された 1 個体の標本は本種に同定された。愛知県内では田原市沖の遠州灘において報告がある（玉井ほか, 2012）。その他に 2023 年 8～10 月にカマス科魚類の釣獲が確認されたが、現地での同定はできなかった。

タチウオ科 Trichiuridae

45. タチウオ

Trichiurus japonicus Temminck and Schlegel, 1844

2022 年 8, 9 月に各 1 個体の釣獲を確認した。標本は得られなかったため、2022 年 9 月 10 日に釣獲された全長約 55 cm の個体を写真で示す（図 4-9）。名古屋港内ではガーデンふ頭において釣獲が確認された（春日井・中島, 2024）。

サバ科 Scombridae

46. マサバ

Scomber japonicus Houttuyn, 1782

標本：PNPA-Pi00189, 2 個体, SL85, 89 mm, 2022 年 5 月 22 日；PNPA-Pi00193, 2 個体, SL119, 124 mm, 2022 年 5 月 28 日（図 3-37）

2022 年 5, 6 月, 2023 年 6～8, 10 月に釣獲を確認した。サビキ釣りで釣獲され, 全長 20 cm 未満の個体が多かった。名古屋港内ではガーデンふ頭において釣獲の報告がある（春日井・中嶋, 2024）。

カレイ目 Pleuronectiformes

カレイ科 Pleuronectidae

47. イシガレイ

Platichthys bicoloratus (Basilewsky, 1855)

標本は得られなかったため, 2023 年 9 月 30 日に釣獲された全長約 40 cm の大型個体を写真で示す（図 4-10）。成魚では有眼側体側背部の石状骨質板の存在（中坊・土居内, 2013a）により容易に本種と同定できる。名古屋港ではガーデンふ頭において幼魚の報告がある（春日井・中嶋, 2024）。

48. マコガレイ

Pseudopleuronectes yokohamae Günther, 1877

標本：PNPA-Pi00183, 1 個体, SL142 mm, 2022 年 4 月 17 日（図 3-38）

2022 年 4, 11 月, 2023 年 3, 4 月に釣獲を確認した。吻端が鈍く, 胸鰭上方の側線湾曲が低い, 無眼側の尾柄部縁辺は黄色くないことなど（中坊・土居内, 2013a）から, 近縁種のマガレイ *P. herzensteini* とは区別できた。マガレイと思, われる個体は確認できなかった。その他 2022 年 1, 3～5, 7, 10～12 月, 2023 年 1, 4～7, 10 月にカレイ科魚類の釣獲が確認されたが, 多くが幼魚であることから現地での同定はできなかった。本種は名古屋港内ではガーデンふ頭において報告がある（春日井・中嶋, 2024）。

フグ目 Tetraodontiformes

ギマ科 Triacanthidae

49. ギマ

Triacanthus biaculeatus (Bloch, 1786)

標本：PNPA-Pi00215, 1 個体, SL137 mm, 2022 年 10 月 8 日（図 3-39）

2022 年 5～11 月, 2023 年 6, 7, 9, 10 月に釣獲を確認した。名古屋港内ではガーデンふ頭において確認されている（春日井・中嶋, 2024）。

カワハギ科 Monacanthidae

50. カワハギ

Stephanolepis cirrhifer (Temminck and Schlegel, 1850)

2022 年 9 月 25 日に釣獲された 1 個体を確認した（図 4-11）。調査期間を通じて確認できたのはこの 1 個体のみであり, 標本は得られなかった。愛知県内では豊橋市大崎町沖の三河湾（中島, 2003）, 田原市赤羽根町地先の遠州灘（荒尾・玉井, 2011）において報告がある。

フグ科 Tetraodontidae

51. ヒガンフグ

Takifugu pardalis (Temminck and Schlegel, 1850)

標本：PNPA-Pi00211, 2 個体, SL80, 83 mm, 2022 年 8 月 21 日；PNPA-Pi00221, 1 個体, SL126 mm, 2022 年 11 月 3 日（図 3-40）；PNPA-Pi00242, 1 個体, SL92.3 mm, 2023 年 10 月 7 日

2022 年 1, 8～12 月, 2023 年 6, 9～12 月に釣獲を確認した。

52. コモンフグ

Takifugu flavipaterus Matsuura, 2017

標本：PNPA-Pi00224, 1 個体, SL96 mm, 2022 年 12 月 4 日（図 3-41）

2022 年 12 月 4 日に得た 1 個体（標本個体）のみを確認した。

53. クサフグ

Takifugu alboplumbeus (Richardson, 1845)

標本：PNPA-Pi00204, 1 個体, SL147 mm, 2022 年 7 月 13 日（図 3-42）

2022年8～10月に釣獲を確認した。愛知県内では渥美半島、高塚（豊橋市高塚町）沖の遠州灘において報告がある（中島，2003）。その他2002年5，7，9～12月，2023年1，5～12月にフグ科魚類の釣獲を確認したが，フグ類は釣獲してもすぐに放流されてしまうので，現地でしっかりと観察をするのが難しかったので多くの個体が同定できなかった。

提供写真および直接確認した上記53種以外では，2022年6，9月にゴンズイ属，2022年4，9，11月，2023年5月にダイナンギンボ属の釣獲を確認した（表1）。また，2023年7，8月にドチザメ科，2023年9月にシュモクザメ科のサメ類，2022年7～9月，2023年10月にアカエイ *Hemitrygon akajei*，2022年10月にハコフグ科の1種が釣獲されているという目撃証言が釣り人から得られた。

考察

調査を行った2022，2023年は新型コロナウイルス感染症の流行期であった。新舞子マリンパーク魚釣り施設も同感染症流行初期の2020年4～5月に発令された「緊急事態宣言」時に約1ヶ月間施設を閉鎖していたが，その後はいわゆる“3密”を避けるアウトドアレジャーに人気が集まったことから特に調査初年度の2022年度はそれまでの1.5倍程度の利用者が魚釣り施設を利用されているとのことであった（株式会社日誠，私信）。調査期間中も釣獲物も少なくなる冬季には利用者が数人という日もあったが，春季から秋季にかけては多くの利用者にぎわい，特にゴールデンウィークや夏休みの週末，お盆期間中などは護岸に隙間がないほど利用者が並ぶ状態の日もあった。

今回の2年の調査で周年にわたって釣獲されている代表的な魚種はカサゴ，メバル複合種群，タケノコメバルのいわゆる“根魚”と呼ばれる仲間で，多くの釣り人が対象魚種としていた。特にカサゴ，メバル複合種群は，キジハタ，マダイ，ヒラメ *Paralichthys olivaceus* とともに，有志団体による稚魚放流が行われており（釣具新聞，2020，2023），護岸直下の捨て石に相当数が定着しているようだ。

その他，マアジ，マサバ，サッパなどは回遊シーズンになると釣具店やSNSで情報が拡散するとファミリー

フィッシング中心の多くの釣り人が対象に訪れる。

全国の釣獲生物が掲載されるウェブサイト「アングラーズ」には釣り場として“新舞子マリンパーク”がエリア設定されており，本調査場所で釣獲した生物写真が投稿されている。投稿写真が全て，実際に本調査場所で釣獲されたという証拠はないことと，間違えた魚種名を掲載している場合もあるが，写真から同定可能で，今回の調査で確認された魚類以外では，ナルトビエイ *Aetobatus narutobiei*，ウルメイワシ *Etrumeus micropus*，アユ *Plecoglossus altivelis altivelis*，サツキマス（アマゴ） *Oncorhynchus masou ishikawae*，マハタ *Hyporthodus septemfasciatus*，イトヒキアジ *Alectis ciliaris*，ヨコスジフエダイ *Lutjanus ophuysenii*，キチヌ *Acanthopagrus latus*，オジサン *Parupeneus multifasciatus*，コブダイ *Semicossyphus reticulatus*，サワラ *Scomberomorus niphonius*，ヒラメ，サザナミフグ *Arothron hispidus*，シロサバフグ *Lagocephalus spadiceus* が確認でき，その他にドチザメ科魚類（おそらくシロザメ *Mustelus griseus*）も掲載されていた。

また近年分布域の北上が確認されているカタボシイワシ *Sardinella aurita*（畑・小枝，2020；畑ほか，2022）も釣獲されているようで，釣り人から写真をいただいたが，やや不明瞭であることから写真からの同定は難しいと判断し，今回はリストには入れなかった。カタボシイワシは近年伊勢，三河湾でも大量に漁獲されている（愛知県，2023）。

名古屋港の最湾奥にあたるガーデンふ頭における出現魚類（春日井・中嶋，2024）と比較すると，マアナゴ，サッパ，カタクチイワシ，ボラ，トウゴロウイワシ，ダツ，カサゴ，クロソイ，シロメバル，タケノコメバル，ホウボウ，スズキ，キジハタ，ギンガメアジ，ヒイラギ，コシヨウダイ，マハゼ，アカオビシマハゼ，アカカマス，タチウオ，マサバ，イシガレイ，マコガレイ，ギマが共通種であった。

謝辞

新舞子マリンパークの管理者である名古屋港管理組合および今回の調査を許可してくださり，便宜を図っていただいた株式会社日誠（新舞子マリンパーク指定管理者）の皆様にも多大な協力をいただいた。また，本調査に

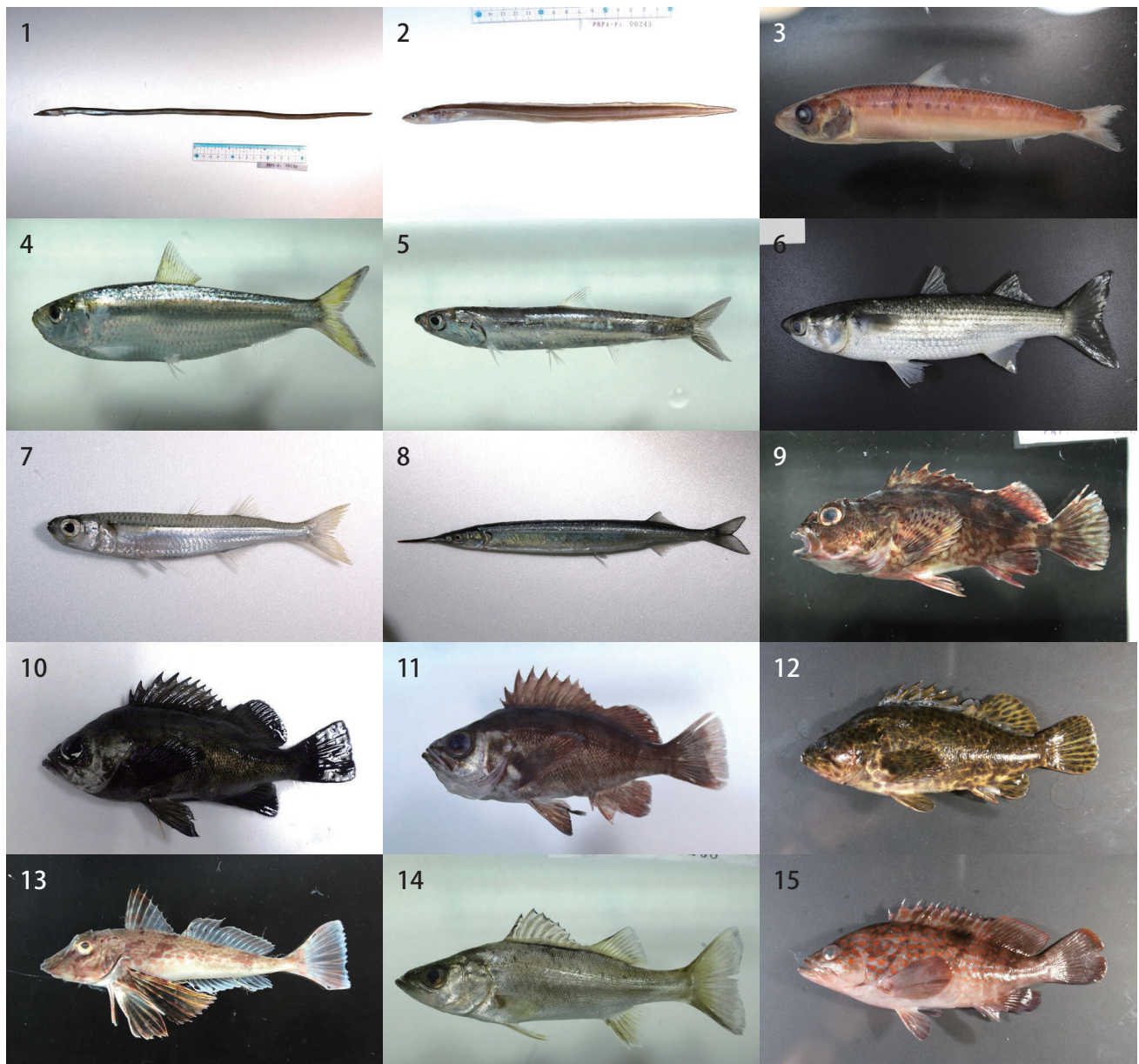


図3. 新舞子マリンパーク魚釣り施設で釣獲された魚類（標本登録個体）

1. ダイナンウミヘビ *Ophisurus macrorhynchus* : PNPA-Pi00228, TL 484 mm.
2. マアナゴ *Conger myriaster* : PNPA-Pi00243, TL 261.5 mm.
3. マイワシ *Sardinops melanostictus* : PNPA-Pi00199, SL136 mm.
4. サツパ *Sardinella zunasi* : PNPA-Pi00207, SL103 mm.
5. カタクチイワシ *Engraulis japonica* : PNPA-Pi00205, SL95 mm.
6. ボラ *Mugil cephalus cephalus* : PNPA-Pi00217, SL174 mm.
7. トウゴロウイワシ *Doboatherina bleekeri* : PNPA-Pi00237, SL90.0 mm.
8. サヨリ *Hyporhamphus sajori* : PNPA-Pi00186, SL255 mm.
9. カサゴ *Sebastiscus marmoratus* : PNPA-Pi00206, SL111 mm.
10. クロメバル *Sebastes ventricosus* : PNPA-Pi00180, SL135 mm.
11. シロメバル *Sebastes cheni* : PNPA-Pi00220, 1 個体, SL77 mm.
12. タケノコメバル *Sebastes oblongus* : PNPA-Pi00203, SL158 mm.
13. ホウボウ *Chelidonichthys spinosus* : PNPA-Pi00229, SL74.9 mm.
14. スズキ *Lateolabrax japonicus* : PNPA-Pi00208, SL89 mm.
15. キジハタ *Epinephelus akaara* : PNPA-Pi00202, SL161 mm.

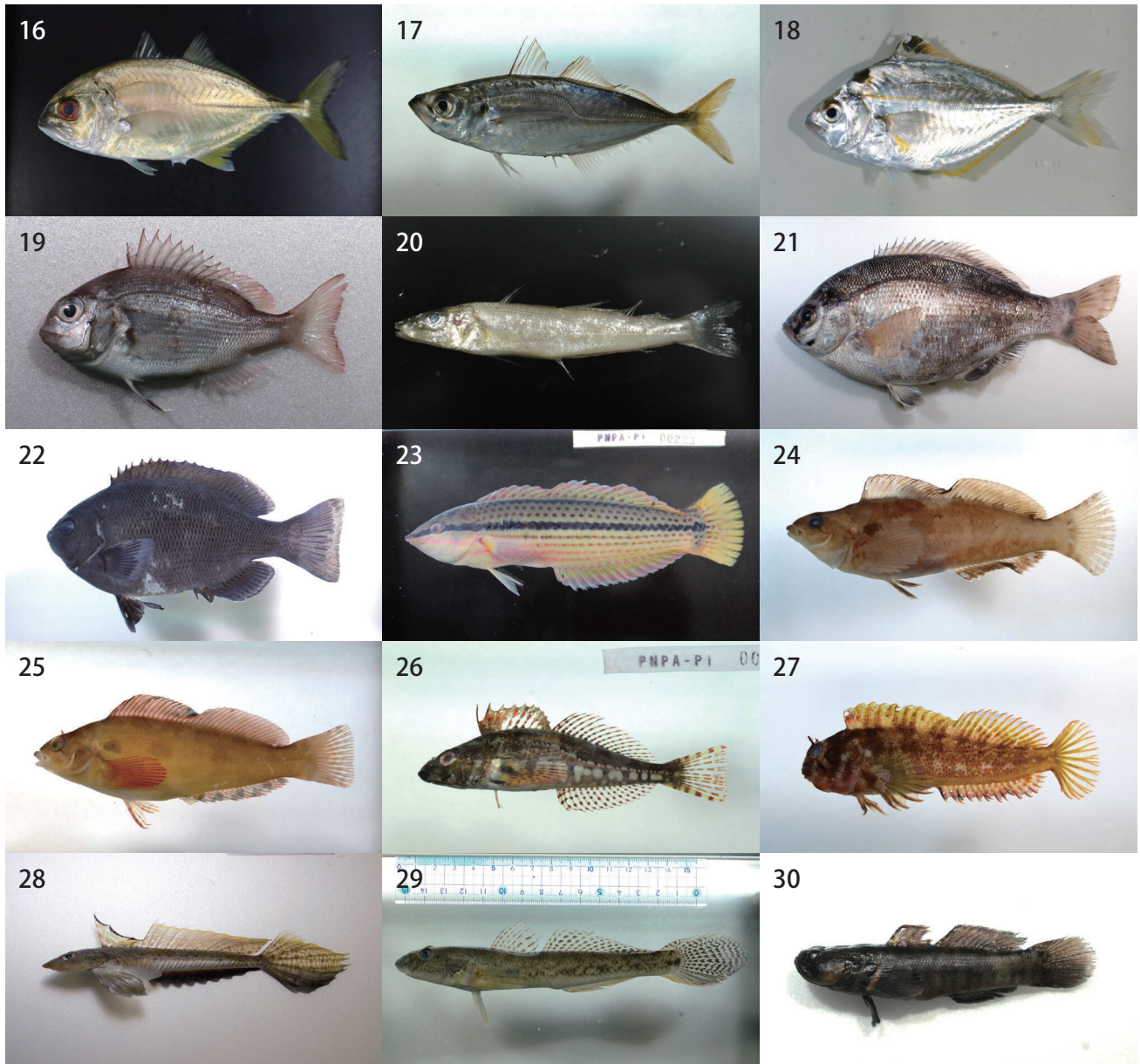


図3. (続き)

16. ギンガメアジ *Caranx sexfasciatus* : PNPA-Pi00212, SL92 mm.
17. マアジ *Trachurus japonicus* : PNPA-Pi00197, SL94 mm.
18. ヒイラギ *Nuchequula nuchalis* : PNPA-Pi00191, SL93 mm.
19. マダイ *Pagrus major* : PNPA-Pi00234, SL57.0 mm.
20. シロギス *Sillago japonica* : PNPA-Pi00187, SL84 mm.
21. マタナゴ *Ditrema temminckii pacificum* : PNPA-Pi00225, SL209 mm.
22. メジナ *Girella punctata* : PNPA-Pi00219, SL122 mm.
23. キュウセン *Parajulis poecileptera* : PNPA-Pi00223, SL136 mm.
24. クジメ *Hexagrammos agrammus* : PNPA-Pi00226, SL106 mm.
25. アイナメ *Hexagrammos otakii* : PNPA-Pi00184, SL92 mm.
26. アサヒアナハゼ *Pseudoblennius cottoides* : PNPA-Pi00198, SL74 mm.
27. イソギンポ *Parablennius yatabei* : PNPA-Pi00241, SL67.4 mm.
28. ネズミゴチ *Repomucenus curvicornis* : PNPA-Pi00216, SL135 mm.
29. マハゼ *Acanthogobius flavimanus* : PNPA-Pi00201, SL140 mm.
30. アカオビシマハゼ *Tridentiger trionocephalus* : PNPA-Pi00190, SL72 mm.

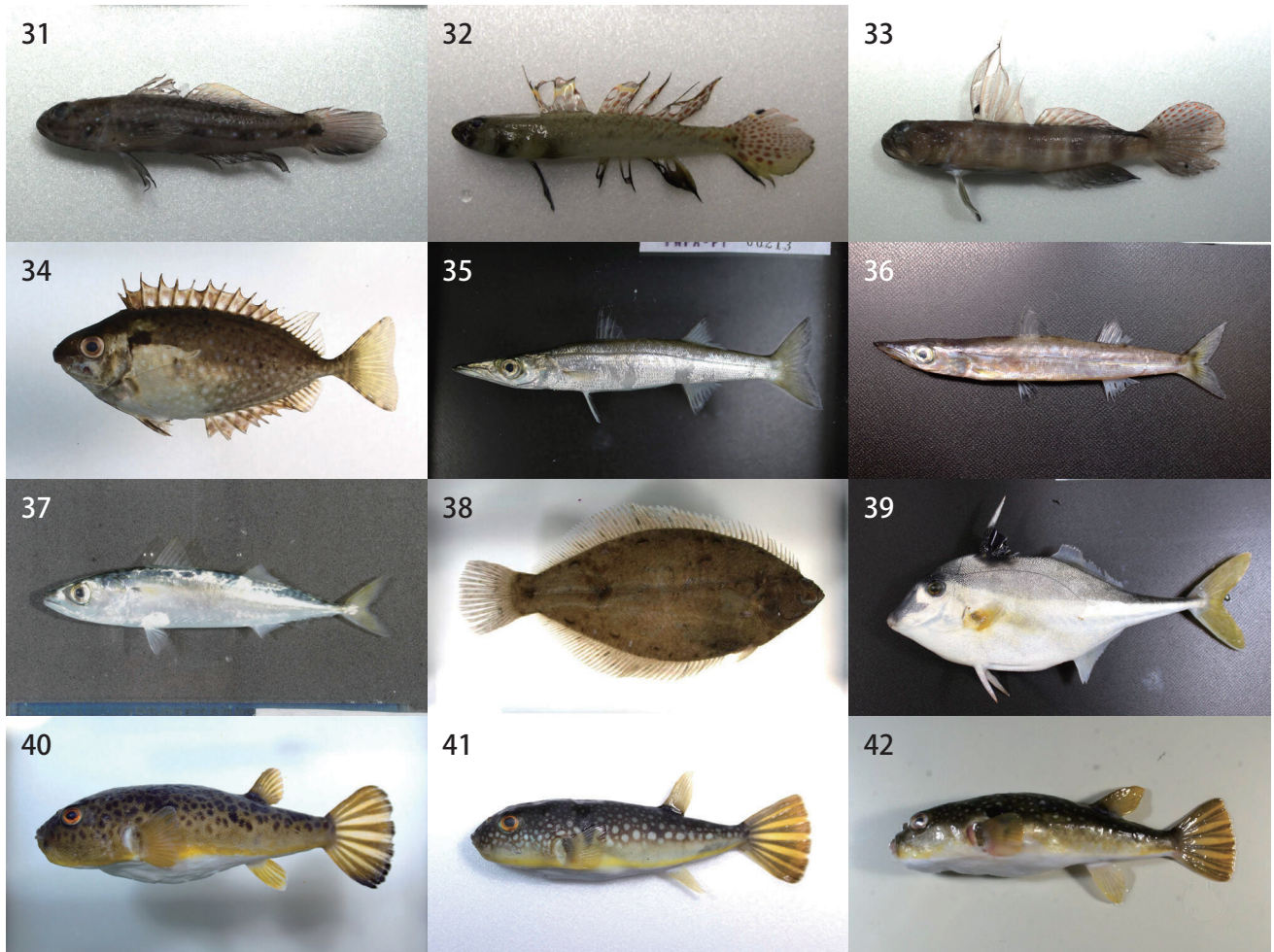


図3. (続き)

31. スジハゼ *Acentrogobius virgatulus* : PNPA-Pi00195, SL58 mm.
32. ヒメハゼ *Favonigobius gymnauchen* : PNPA-Pi00232, SL60.0 mm.
33. イトヒキハゼ *Myersina filifer* : PNPA-Pi00196, SL90 mm.
34. アイゴ *Siganus fuscescens* : PNPA-Pi00239, SL67.6 mm.
35. アカカマス *Sphyraena pingui* : PNPA-Pi00213, SL116 mm.
36. ヤマトカマス *Sphyraena* sp. : PNPA-Pi00233, SL103.5 mm.
37. マサバ *Scomber japonicus* : PNPA-Pi00193, SL119 mm.
38. マコガレイ *Pseudopleuronectes yokohamae* : PNPA-Pi00183, SL142 mm.
39. ギマ *Triacanthus biaculeatus* : PNPA-Pi00215, SL137 mm.
40. ヒガンフグ *Takifugu pardalis* : PNPA-Pi00221, SL126 mm.
41. コモンフグ *Takifugu flavipaterus* : PNPA-Pi00224, SL96 mm.
42. クサフグ *Takifugu alboplumbeus* : PNPA-Pi00204, SL147 mm.



図4. 新舞子マリンパーク魚釣り施設で釣獲された魚類（写真のみ）

1. コノシロ *Konosirus punctatus* : 2023 年 4 月 29 日撮影
2. ダツ *Strongylura anastomella* : 2023 年 5 月 23 日撮影 ※下段の個体
3. クロソイ *Sebastes schlegelii* : 2023 年 11 月 26 日撮影
4. マゴチ *Platycephalus* sp.2 : 2023 年 5 月 20 日撮影
5. ブリ *Seriola quinqueradiata* : 2023 年 10 月 31 日撮影 ※中島義光氏より提供
6. クロホシフエダイ *Lutjanus russellii* : 2023 年 10 月 28 日撮影 ※近藤義男氏より提供
7. コショウダイ *Plectorhinchus cinctus* : 2023 年 10 月 28 日撮影 ※近藤義男氏より提供
8. クロダイ *Acanthopagrus schlegelii* : 2023 年 1 月 3 日撮影
9. タチウオ *Trichiurus japonicus* : 2022 年 9 月 10 日撮影
10. イシガレイ *Platichthys bicoloratus* : 2023 年 9 月 30 日撮影
11. カワハギ *Stephanolepis cirrhifer* : 2022 年 9 月 25 日撮影

協力いただき多くの釣り人の皆様から釣獲生物を譲渡していただいた。近藤義男、中島義光の両氏は情報をいただき、釣獲生物の写真を譲渡していただいた。荒尾一樹氏にはスジハゼに関する文献情報をいただいた。これらの方々に対し心から深く謝意を表する。

引用文献

- 愛知県. 2023. 漁海況月報令和5年1月31日号. <https://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/446417.pdf>. 2024年7月1日確認
- 赤崎正人. 1997. コショウダイ. 岡村 収・尼岡邦夫(編). 日本の海水魚, p. 348. 株式会社 山と溪谷社, 東京.
- 明仁・坂本勝一・池田祐二・藍澤正宏. 2013. ハゼ亜目. 中坊徹次(編). 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版, pp. 1347-1608. 東海大学出版会, 秦野.
- 荒尾一樹. 2016. 第2部4章1 三河湾沿岸域の魚類. 石川智士・吉川 尚(編). 幡豆の海と人びと, pp. 164-176. 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所, 京都.
- 荒尾一樹. 2019. 名古屋市で採集された淡水魚類. なごやの生物多様性, 6: 109-111.
- 荒尾一樹・玉井隆章. 2011. 愛知県一色漁港に水揚げされた魚類. 豊橋市自然史博物館研報, 21: 17-26.
- 荒尾一樹・山上将史・大仲知樹. 2007. 愛知県の河口域魚類. 豊橋市自然史博物館研報, 17: 29-40.
- 地村佳純・朝倉美波. 2019. 油ヶ淵で釣獲されたクルマサヨリ. 碧南海浜水族館年報, 31: 23-24.
- 地村佳純・亀蔦重範. 2017. 矢崎川(西尾市)の魚類相. 碧南海浜水族館・碧南市青少年海の科学館年報, 29: 21-25.
- 地村佳純・亀蔦重範・手島正広・磯貝 徹. 2014. 矢作古川(矢作川水系・分流)の魚類相. 碧南海浜水族館年報, 26: 18-25.
- 畑 晴陵・小枝圭太. 2020. 四国南西部から得られた四国2例目のニシン科魚類カタボシイワシ. Kuroshio Biosphere, 17: 8-17.
- 畑 晴陵・佐土哲也・中江雅典. 2022. 千葉県から得られた分布東限記録のニシン科魚類カタボシイワシ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 21: 31-38.
- 波戸岡清峰. 2000. ウミタナゴ科. 中坊徹次(編). 日本産魚類検索 全種の同定, 第二版, p. 917. 東海大学出版会, 東京.
- 碧南海浜水族館. 1992. 矢作川河口における魚類および甲殻類(十脚目)生息調査. 碧南海浜水族館・碧南市青少年海の科学館年報, 6: 14-26.
- 岩槻幸雄. 1997. クロホシフエダイ. 岡村 収・尼岡邦夫(編). 日本の海水魚, p. 334. 株式会社 山と溪谷社, 東京.
- Kai, Y. and Nakabo, T. 2008. Taxonomic review of the *Sebastes inermis* species complex (Scorpaeniformes: Scorpaenidae). Ichthyological Research, 55: 238-259.
- 加古智哉・小林清重・阿久根雄一郎・神田幸司・森 朋子・福本洋平・大友 航・大島由貴・春日井 隆. 2024. 名古屋港における1999年~2021年のスナメリの死亡漂着. なごやの生物多様性, 11: 29-34.
- 神田幸司・堂崎正博・森 朋子・漁野真弘・春日井 隆. 2024. 名古屋市内の河川で目撃されたスナメリ *Neophocaena asiaeorientalis*. なごやの生物多様性, 11: 23-28.
- 春日井 隆・中嶋清徳. 2024. 伊勢湾最湾奥に位置する名古屋港ガーデンふ頭で採集された魚類. なごやの生物多様性, 11: 47-61.
- 春日井 隆・斉藤知己. 1999. 知多半島南岸(愛知県)のアマモ場で採集されたフエダイ科魚類2種の幼魚. 南紀生物, 41: 65-66.
- Katafuchi, H. and Nakabo, T. 2007. Revision of the East Asian genus *Ditrema* (Embiotocidae), with description of a new subspecies. Ichthyological Research, 54: 350-366.
- 松井彰子. 2014. スジハゼ複合種群における遺伝的集団構造の形成にかかわる生態的特性の解明. 京都大学博士論文.
- 本村浩之. 2024. 日本産魚類全種目録. これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名. Online ver. 28. <https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/jaf.html> 2025年1月18日確認
- 中坊徹次(編). 2013. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会, 秦野. 2530pp.
- 中坊徹次・土居内 龍. 2013a. カレイ科. 中坊徹次(編). 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版, pp. 1675-1683. 東海大学出版会, 秦野.

- 中坊徹次・土居内 龍. 2013b. メジナ科. 中坊徹次（編）. 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版, p. 1077. 東海大学出版会, 秦野.
- 中嶋清徳・春日井 隆. 2022. 伊勢湾最湾奥に位置する名古屋港ガーデンふ頭で採集された十脚目甲殻類. なごやの生物多様性, 9: 49-59.
- 中嶋清徳・中野秀彦・春日井 隆・木村妙子・木村昭一. 2023. 伊勢湾最湾奥に位置する名古屋港ガーデンふ頭で採集された軟体動物. なごやの生物多様性, 10: 111-123.
- 中島徳男. 2003. 愛知県近海の魚類. 自費出版, 愛知, 198p., 79 pl
- 岡村 収・尼岡邦夫（編）1997. 日本の海水魚. 株式会社山と溪谷社, 東京. 783pp.
- 齋藤 豊・堂崎正博・祖一 誠. 2014. 名古屋港に生息するスナメリの調査. 海洋と生物 36: 29-35.
- 瀬能 宏. 2013a. アジ科. 中坊徹次（編）. 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版, pp. 878-899. 東海大学出版会, 秦野.
- 瀬能 宏. 2013b. トウゴロウイワシ科. 中坊徹次（編）. 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版, pp. 642-644. 東海大学出版会, 秦野.
- 島田和彦. 2013. イサキ科. 中坊徹次（編）. 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版, pp. 940-945. 東海大学出版会, 秦野.
- 鈴木寿之・渋谷浩一・矢野維幾. 2004. スジハゼ A, スジハゼ B, スジハゼ C. 瀬能宏監修. 決定版日本のハゼ, pp 416-418. 平凡社, 東京.
- 玉井隆章・荒尾一樹. 2021. 愛知県一色漁港に水揚げされた魚類（第4報）. 豊橋市自然史博物館研報, 31: 45-55.
- 玉井隆章・市川久祥・荒尾一樹. 2012. 愛知県一色漁港に水揚げされた魚類（第2報）. 豊橋市自然史博物館研報, 22:33-40.
- 釣具新聞. 2020. 【日本釣振興会愛知県支部】人気魚釣り施設でキジハタ等の稚魚放流. <https://tsurigu-np.jp/news/4020/> 2025年1月18日確認
- 釣具新聞. 2023. 愛知の新舞子マリンパークで3万4000尾の稚魚放流！一般の釣り人も参加し賑やかな活動. <https://tsurigu-np.jp/news/17600/> 2025年1月18日確認
- 安武由矢・高橋 洋・望岡典隆. 2021. AFLP 解析による種同定に基づく九州北部海域におけるメバル複合種群の計数形質. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 15: 33-37.
- 吉郷英範. 2001. 松永湾河口域で採集された広島県未記録の魚類3種と“スジハゼ”3種について. 比婆科学, 201: 1-13.